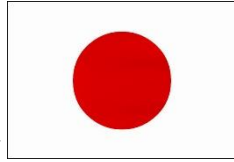




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
July. 2019 No.11

7月に入り夏休みが近づいてきましたね。暑さもさらに増してきたのではないのでしょうか。私の過ごす地域では、日中は暖かいですが、最低気温が10度を下回る日が続く、寒さが増して冬が近づいてきています。

さて、私はナミビアには2018年7月から来ています。この7月で一年が経ち、時間の経過がとてもはやいと感じるとともに、ナミビアで過ごす限られた時間を大切にしたいと改めて思いました。みなさんも充実した日々を過ごすために、計画を立てて良い夏休みにしてください。

ナミビアのお米(Namibia's rice)

アフリカのお米と聞いて、どんな印象でしょうか。私が初めて食べた印象は「もちもちしていて、おいしい!」でした。ナミビアでも、お米の栽培が行われており、栽培方法を伝える支援をJICAのプロジェクトなどを通して行っています。アフリカの多くの地域では、トウモロコシ類の粉をお湯に溶かしてつくる「ポリッジ」と言われるものが主食になっています。しかし、近年ではお米の消費が増え、需要が高まっています。

JICA ロゴ入り
「オゴンゴライス」



～協力隊員に聞きました～

「様々な職種のボランティアが活動しています。」

ひらたなおあき
平田尚晃さん 1992年生まれ、大阪府出身

・職種(活動内容)

「食用作物・稲作栽培」隊員

ナミビア北部のナミビア大学オゴンゴキャンパスで活動しています。主に大学内にある水田の稲の管理・運営や周辺農家のサポートをしています。砕けてしまったコメを利用した、米粉でつくるクッキーの作り方の紹介や、現地の主食であるトウジンビエと米粉を混ぜて、栄養価の高い商品の普及に努めました。栄養改善の一助となることから、稲作に興味をもって自ら栽培しようとする農家の人たちもいます。

・なぜ青年海外協力隊に応募したのですか。

小学校の時に父の仕事の関係で台湾に三年間住みました。その時に、色々な価値観をもった人と交流する楽しさを知りました。また、漠然と世界には貧しい人がいて、その人達の役に立ちたいと思うようになりました。その思いを心の片隅にもち続け、大学の農学部に進み、学んだ知識を生かして、青年海外協力隊に応募しました。

・ナミビアの印象について教えてください。

とにかく乾燥しています!何もしていないのに、鼻血が出たことが2回あります。ナミビア人はそんな環境に慣れているためか、水分補給の回数が日本人よりも圧倒的に少ないことに驚きました!

・活動で大変だったことを教えてください。

ナミビア人は、心に思う気持ちを素直に顔や態度にあらわすので、それを見て、私も一喜一憂して疲れました。私が提案した内容が納得いかないと、とても嫌な顔をするときがあります。しかし、お米の収穫量がこれまでよりも多かった時には、子どもの様に目を輝かせて喜びます。その笑顔を見てそれまでの心配ごとや疲れも全て吹き飛びました!

・中学生へのメッセージをお願いします。

「自分のもった夢に、人生はおおむね比例する結果を生む。」ある人の言葉で、私が常に心に留めている言葉です。私は中学3年生の時に、未来への自分の姿というテーマで、『将来はアフリカで働いている』と書きました。自分には出来ないと思わず、できるだけ大きな夢をもった方が良いと思います。あとは、その夢の実現に向けて、努力をしてください!!私自身、紆余曲折はありましたが、叶うものだと信じています!



平田尚晃さん(左)
同僚とお米の収穫を喜ぶ



砕けたコメを取り除く
ため、ふるいで選別する